

**企画展示** 館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

### エントランスギャラリー 1F

新型コロナウイルス感染症と日本人旅行者の動向  
(2021年1月～3月)

コロナ禍において、日本人の旅行がどのように変わるのか、反対にどのような点が変わらないのか、当財団独自調査「JTBF旅行意識調査」「JTBF旅行実態調査」の分析結果をご紹介します。



### 貴重書ギャラリー 1F

「紀行文の名手」田山花袋と明治期の紀行文学  
(2021年1月～3月)

「紀行文」とは、旅行中の体験・見聞・感想などを書きつづけた文章のこと。旅行記、道中記などともいわれます。「蒲団」「田舎教師」などの作品で知られ、自然主義派を代表する作家の一人である田山花袋が、「温泉めぐり」や「山行水行」などの優れた作品を残した紀行文の名手であることはあまり知られていません。本企画展では、田山花袋を中心に、花袋の眼を通した当時の文人たちの代表的な紀行文を紹介します。



### コロナ関連図書展示 1F

新着図書コーナーに、コロナに関連した図書やポスト・コロナの時代の観光をテーマにした図書を収集展示しています。



継続展示中!

1F

- 「旅の図書館オススメの一冊」
- 「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」
- 「ふるさとパンフレット大賞」受賞作品 (地域活性化センター協力)

B1F

- 「公益財団法人日本交通公社がお勧めする研究書&実務書100選」
- 当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」

## Information

### 戦前を代表する旅行雑誌『旅』復刻開始!

『旅』は、日本旅行文化協会(後にジャパン・ツーリスト・ビューローと合併)によって1924(大正13)年に創刊され、80年以上にわたり刊行された旅行雑誌です。

このたびゆまに書房より『旅』の復刻が始まり、創刊号から休刊される1943(昭和18)年までの全61巻(+別巻1)のうち、第1回配本分(全4巻)が刊行されました。監修・解説は関西学院大学の荒山正彦氏で、当館が総監修をしています。

大正～昭和戦前期の日本の旅と観光の姿を知るための貴重資料としてぜひご活用ください(当館では創刊号から終刊号まですべての『旅』がデジタル・コレクションとしてご覧いただくこともできます)。



### 当財団の活動紹介

—日韓国際観光カンファレンスを開催

2020年11月10日(火)、日韓国際観光カンファレンスを開催しました。研究協定を結んでいる韓国文化観光研究院と毎年共催しているもので、本来ならば今年度は日本で開催予定でしたが、新型コロナの影響により、初のオンライン開催となりました。

同時刻に海を越えて同じ課題意識を共有し、議論と連帯を深めることができました。引き続き、共同調査の実施など、研究協力、連携を強めていきたいと思います。



# たびとしよ

—旅の図書館 News Letter—

Vol. 14

2021年1月号



# 「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

## コロナが変えた図書館総合展 ～「第22回図書館総合展\_online」参加記～

例年11月上旬の3日間、「パシフィコ横浜」を会場に開催される図書館総合展。図書館界最大のイベントであるこの総合展には、当館も、ポスターセッションでの館の紹介、情報収集、図書館業界でのネットワークづくり等の機会として、ここ数年継続して参加してきました。コロナ禍にある今回は初のオンライン開催となり、期間も11月1日～30日の1か月間に及びました。当館が参加した2つのフォーラムについてご紹介します。

### 第9回情報ナビゲーター交流会 (11月2日(月) 15:00～17:00)

ビジネス支援図書館推進協議会(以下、協議会)と一般財団法人機械振興協会経済研究所主催のこの交流会は、公共図書館と専門図書館をつなぐことを狙いとして毎年開催しているもので、今年のテーマは「専門図書館と公共図書館の連携はなぜ進まないのか」。専門図書館からは当館と渋沢栄一記念財団情報資源センター、アジア経済研究所学術情報センター、機械振興協会経済研究所(BICライブラリ)の4館が参加し、ミニプレゼンの後、小林隆志氏(同協議会副理事長)をコーディネーターにパネルディスカッションを行いました。

情報基盤たる図書館に身を置く立場として、このような混とんとした社会だからこそ「つながる」ことの大事さをあらためて実感する機会ともなりました。

交流会の様子は、総合展期間中ウェブサイトでも公開され、現在はビジネス支援図書館推進協議会HPでご覧いただけます。

<http://www.business-library.jp/2020/12/10/9infnovai/>

### 専門図書館をのぞいてみよう ヴァーチャル図書館見学 ～港区図書館グループを中心に～ (11月19日(木) 10:00～11:30)

今年の総合展で注目されたのが図書館のオンライン見学会。全国どこからでも参加者がヴァーチャル見学でき、図書館としてもより広く自館の魅力を紹介することができることから、全国各地の図書館がオンライン見学会にチャレンジしました。

当館が参加したのは、BICライブラリ主催の「専門図書館をのぞいてみよう」。当館を含む東京都港区内の6館をはじめ専門図書館9館が一堂に介したこのオンライン見学会には、128名もの参加がありました。見学会はなかなか好評で、「図書館見学会\_ONLINE」賞では来場者投票賞の1位を授賞しました(<https://2020.libraryfair.jp/news/2020-12-18-0>)。当館にとっても動画作成は初めての試みで、参加館同士で情報交換しあいながら取り組めたことは大きな財産となりました。参加館はいずれも個性あふれる専門図書館ばかりです。ヴァーチャル見学の次は、ぜひ実際に足を運んでみてください。



### 専門図書館を のぞいてみよう

ヴァーチャル図書館見学  
港区図書館グループを中心に

#### <参加館>

BICライブラリ(港区)、野球殿堂博物館図書室(文京区)、三康図書館(港区)、アドミュージアム東京(港区)、航空図書館(港区)、大宅社一文庫(世田谷区)、人権ライブラリー(港区)、防災専門図書館(千代田区)、旅の図書館(港区)

作成した当館の紹介動画より

※動画の簡易版は当館HPでも紹介しています

<https://www.jtb.or.jp/library/about-library/>

## 第20回たびとしょCafeを開催しました(12/4)

テーマ 「地域・社会が一体で取り組む歴史的建築物の活用～一般社団法人ノオトの活動の現場から～」

ゲストスピーカー 伊藤清花氏 (一般社団法人ノオト 代表理事)

第20回たびとしょCafeには、地域・社会とともに歴史的建築物の活用に取り組む、ノオトの伊藤清花氏をお招きしました。

ノオトは、地域の“ローカル”な暮らしの中にこそ未来につながるべき本当の豊かさがあると考え、「郷に在ること」をキーワードに活動しています。「なつかしい日本の暮らし」の継承のために“グローバル”な事業はあくまで手段として捉える姿勢は、古民家や地域性を事業差別化のための付加価値として捉える姿勢と一線を画しています。

地域の何気ない暮らし・文化・人・景観の中に価値を見出し、その価値を奇をてらわずに伝えること、経済効果の大きさに目を向けるのではなく、無理なく続けられ仕組みを考え続けることが、事業化のポイントだとお話しいただきました。

後半の質疑応答では、地域住民との信頼関係の深め方、地域性を

具体化する方、地域ごとの事業体制、NOTEやNIPPONIAに集う人材、コストや価格設定の考え方、次に展開する地域を決める際の基準など、多くの質問が寄せられ盛り上がりしました。

今回のCafeは、20回目にして初のオンライン開催となりました。全てがいつも通りとはいきませんでしたが、地方からご参加の方も多く、画面越しにリアルタイムに意見交換ができたのは貴重な時間となりました。オンラインでのより良い運営方法については、今後さらに工夫していきたいと思います。



## 旅の図書館オススメの一冊！

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します。



1 江戸の広告作法 えどばたいじんぐ  
坂口由之著 公益財団法人吉田秀雄記念事業財団  
2020年10月 A5判 139頁

広告業界を代表する博物館アドミュージアム東京の常設展示作品を学芸員である著者が自ら解説。今日の広告のルーツがここにある。

2 観光再生  
サステナブルな地域をつくる28のキーワード  
村山慶輔著 プレジデント社  
2020年11月 四六判 285頁

観光総合情報サイト「やまごころ.jp」を運営する著者によるサステナブルな観光をつくるためのヒント。コロナ禍の世界、日本で“観光再生”が求められる今、読んでおきたい。

3 新しい時代の観光学概論  
持続可能な観光振興を目指す  
島川崇著 ミネルヴァ書房  
2020年11月 A5判 256頁

体系的かつ俯瞰的な視点から構成され、持続可能な観光振興を実現できる人材輩出に資する新しい時代の観光学テキスト。

4 競馬にみる日本文化  
石川肇著 法蔵館 2020年10月  
A5判 157頁

観光地の鳥瞰図で名高い吉田初三郎研究の第一人者が、初三郎による戦時下の東アジアに作られた今はなき競馬場の鳥瞰図とともに独特の視点で描く競馬文壇史。

5 日本の観光  
一昭和初期観光パンフレットに見る  
谷沢明著 八坂書房 2020年9月  
菊判 309頁

記録として残されることの少ない観光パンフレットを地域ごとに多数収録。昭和初期の日本の観光を読み解く文化史ともいえる一冊。

## オススメのもう一冊！！

新刊図書の中にも、ポスト・コロナを見据えた観光関連図書の出版を次第に目にするようになりました。

その中で特にオススメの一冊をご紹介します。当財団研究員も執筆陣に加わっています。



### ポスト・オーバーツーリズム 境界を再生する観光戦略

阿部大輔 編著 石本東生・江口久美・岡村祐・西川亮・沼田社人・後藤健太郎 著  
学芸出版社 2020年12月 A5判 240頁

市民生活と訪問客の体験の質に負の影響を及ぼす過度な観光地化＝オーバーツーリズム。不満や分断を招く“場所の消費”ではなく、地域社会の居住環境改善につながる持続的なツーリズムを導く方策について、欧州・国内計8都市の状況と住民の動き、政策的対応をルポ的に紹介し、アフターコロナにおける観光政策の可能性を示す(出版社内容紹介より)。

## このローカル誌が面白い！

地域に足を運ばなければなかなか目にする事ができないのが地域情報誌(ローカル誌)。厳選収集しているローカル誌の中から、スタッフの“イチオシ”を紹介します。



### 鳥取県 『さんいんキラリ』

有限会社グリーンフィールズ  
季刊

山陰・山陽の「食・工芸・人・地」を紹介する情報誌。特集をはじめ、記事ひとつひとつの掘り下げ方がすごい。